

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	870301108		
法人名	株式会社中内		
事業所名	グループホーム永国長寿館		
所在地	土浦市永国1048-1 (電話) 029-823-1951		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	茨城県水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館2階		
訪問調査日	平成19年5月17日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】(平成19年4月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月7日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12人	常勤	12人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての		3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月)	21,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	400円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(5月17日現在)

利用者人数	18名	男性	9名	女性	9名	
要介護1	3		要介護2	10		
要介護3	4		要介護4	1		
要介護5			要支援2			
年齢	平均	78歳	最低	60歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑波病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員は、“ゆっくり・楽しく・一緒に”の理念を共有しており、利用者が理念に沿った生活が送れるよう、支援している。
利用者等の希望により、地域のかかりつけ医に職員が送迎して受診することができる体制や協力医療機関から定期的な往診、看護師による夜間・休日の巡回訪問により、適切な医療を受けられる体制となっているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価での課題は、運営理念の共有や居室の環境づくりなど、できることは改善しているが、管理者等で対応しているため、組織的に対応するまでには至っていないので、全職員による話し合いの機会を設けるなど、課題を職員と共有し、改善に取り組む事が望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価の結果を掲示しているが、評価の意義やねらい等の周知を図る取り組みが充分ではないので、全職員による話し合いの機会を設けるなど、評価に取り組む体制作りが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、行政、地域の代表、利用者とその家族等の参加で開催し、ホームの概要説明と運営推進会議の役割などを確認し合い、規約の作成や意見交換を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書にホームの苦情相談担当者や外部の相談窓口を明示している。 また、介護相談員を積極的に受け入れ、利用者が相談している。 家族会の開催や運営推進会議への家族の参加を促す事で、意見・要望を出しやすい環境となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や老人会に入会するとともに、地域の草取りやゴミ拾いに積極的に参加している。 ホームの2階を地域の方々が利用できる交流スペースとして、開放している。 納涼祭に地域の方を招待するとともに、民生委員や体験学習の中学生を受け入れるなど、地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念や目指すべき方向を明記した、季刊ごとに発行している広報誌を新聞折込で地域に配布している。 また、ホームを訪問するボランティアにもホームを理解してもらえよう、配付している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、“ゆっくり・楽しく・と一緒に”の理念を共有しており、利用者が理念に沿った生活が送れるよう、支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に入会するとともに、地域の草取りやゴミ拾いに積極的に参加している。 ホームの2階を地域の方々が利用できる交流スペースとして、開放している。 納涼祭に地域の方を招待をするとともに、民生委員や体験学習の中学生を受け入れるなど、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果を掲示しているが、評価の意義やねらい等の周知を図る取り組みが充分ではない。 外部評価での課題は、運営理念の共有や居室の環境づくりなど、できることは改善しているが、管理者等で対応しているため、組織的に対応するまでには至っていない。	○	外部評価の意義とねらいの理解や評価から得られた課題の改善に向けた、全職員による話し合いの機会を設けるなど、評価に取り組む体制作りが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政、地域の代表、利用者とその家族等の参加で開催し、ホームの概要説明と運営推進会議の役割などを確認し合い、規約の作成や意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の受け入れ時等に、地域包括支援センターと連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会でホームの方針や状況を説明している。 また、家族に法人の広報誌や預かり金の利用明細書の写しを送付するなど、定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談担当者や外部の相談窓口を明示している。 また、介護相談員を積極的に受け入れ、利用者が相談している。 家族会の開催や運営推進会議への家族の参加を促す事で、意見・要望を聞く環境を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設置法人内で人事異動を行っているが、ユニットの常勤職員を固定するなど、利用者や職員が馴染みの関係をつけられるよう、配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いて、職員の接遇訓練等を継続して行い、利用者へのケアに活かしているが、職員の認知症等に関する研修を受けられる体制には至っていない。	○	職員一人ひとりの段階に応じた研修の機会を確保するためにも、年間計画を作成し、法人内の学習会や外部研修の情報を職員に周知を図る取り組みが望まれる。 また、研修報告を口頭のみで伝えるのではなく、報告書を作成し、その内容を職員間で共有する、体制作りを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加盟している。法人間での職員交流は行っているが、他の同業者と交流を図るまでには至っていない。	○	他事業者との交流を図ることは、職員等の悩みの解消や気づきを貰える機会となるので、実現に向けた働きかけが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用するにあたり、本人や家族等が訪問し、必要な書類をホームに提出し、利用できるか検討している。 また、ホームの見学を受け入れるとともに、丁寧に説明を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる事や持っている力を引き出せるよう、心がけている。 職員は、利用者が笑顔で毎日過ごすことができるよう、支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、コミュニケーションを図る中で、利用者の希望や意向を把握している。	○	生活歴に日々の会話を重ねる事で、利用者の思いや希望を把握し、職員や家族等と一緒に共有できるよう、更なる取り組みを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用時に利用者の状態や生活状況に関するアセスメントを行い、家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が安定している利用者や入居時から変更していない利用者があるなど、期間や状態に応じた介護計画の見直しが行われていない。	○	状態が安定していたり、変化の無い利用者も、期間が満了となったときには、本人、家族、職員の意見を取り入れ、現状に合った介護計画の見直しが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員による病院への通院、協力医療機関の看護師による夜間・休日の巡回訪問など、利用者や家族の要望に沿った支援を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者等の希望により、地域のかかりつけ医に職員が送迎して受診することができる。 また、協力医療機関から定期的な往診や看護師による夜間・休日の巡回訪問により、適切な医療が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に変化があったときの対応は、職員と話し合いを行っているが、終末期に向けた具体的な方針や体制づくりまでは至っていない。	○	利用者・家族との話し合いを持ち、その意向を取り入れながら、ホームとしての対応について職員と意見交換を行い、指針や対応マニュアル等の体制整備に取り組むことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者や家族の人格、プライバシーなどの尊厳を守るよう、接遇の講習を職員全員が受講し、日常のケアに活かしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは組んでいるが、無理強いすることなく、利用者一人ひとりが自由に過ごしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は調理、テーブル拭き、下膳など、利用者のできることを手伝ってもらえるよう、声かけなどにより働きかけている。 おかゆや刻み食など、利用者の咀嚼力に応じた調理を行い、利用者と職員が同じテーブルで会話や支援をしながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はユニット毎に曜日を換え、午後の時間帯に決めているが、男女が別々の時間に、一人ずつゆっくり入れるよう、支援している。 入浴を拒否する利用者には、無理強いせず、利用者のタイミングを捉えて、入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ、掃除用具、裁縫用具などの道具を準備し、利用者に提供しているが、利用者一人ひとりに十分な楽しみごとや気晴らしの支援をするまでに至っていない。	○	利用者の生活歴や楽しみごとを、日常の会話や職員の気づきなどにより、把握するとともに、利用者が張り合いのある生活が送れるよう、物品の提供や場面づくり等に取り組むことを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩や近隣のスーパーへの買い物、公園等にドライブなど、利用者の希望に添った外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは3階建であるため、安全に配慮して階段やエレベーター部分は常時施錠している。 朝の散歩や近隣への買い物など利用者の自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害が起きたときは、屋上へ避難するよう、統一している。 消防署の設備検査時などに、緊急時の避難等について、アドバイスを受けているが、地域と連携を図り、災害対策に取り組むことが充分ではない。	○	災害が発生したときに、地域の方々に協力を得られるよう、運営推進会議や自治会などに働きかけるとともに、地域と合同の避難訓練を実施できる体制づくりを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時には、協力医療機関の管理栄養士から、専門的なアドバイスを受けている。 残食量や水分摂取は個別に記録している。 月1回の体重測定を行いながら、利用者一人ひとりの健康状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にスナップ写真や手づくりの作品を掲示するとともに、畳のコーナーやソファを設置するなど、利用者が落ち着いて過ごせるよう、配慮している。 幹線道路からの騒音は気にならず、窓から見える景観は、利用者が季節を感じられるよう、工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子、好みの物を利用者の生活スタイルに合わせた場所に置いている。 また、アルバム・仏壇・テレビ・冷蔵庫などとともに、馴染みのものを持ち込み、利用者が安心して生活できる空間づくりの支援をしている。		

※  は、重点項目。